

山上の説教・八つの幸い（靈的な発達の道）

📖 「イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。

柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。

義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。

心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」（マタ 5:1-12）

- ◆ μακάριος {mak-ar'-ee-os} 1) blessed, happy 祝福された人(恵まれている)、幸いな人（運がいい）
- ◆ 人間は、完全に幸せになるために創造されていますので、幸福への望みは、人間にとって最も大きな原動力になっています。したがって人間は、どんな幸福を求めるかによって、その人生は随分違うものになります。
- ◆ 幸せとは何ですか？
- ◆ 普段、人々はどのように幸せになろうとしていますか？
- ◆ 幸福の四つの段階
 1. 瞬間満足（人間は、欲しいものを手に入れるときに幸福感を感じますが、そのような気持ちは、割合と早く消えるものなのです。）
 2. 個人の業績（人間がやったことのゆえに誉めてもらったり、評価されたりするときは、欲しいものを手に入れるよりも深い幸福感を得ますが、それも一時的なものです。）
 3. 博愛・慈善（他人を助けたり、他人のために善を行ったりすることです。この段階に辿った人は、第一段階や第二段階に留まった人よりも大きな幸福感を味わっていますし、豊かな人生をおくっていますが、人間はそれ以上の幸福のために創造されていますので、それは十分ではありません。）
 4. 神との一致（創造主である神の命に参与する。これこそ、人間にとって完全で、永遠に続く幸福の状態です。山上の説教の中でイエスは、このような幸福について語っています。）
- ◆ 最初の三つの段階において貧しさ、悲しみ、飢え、渴き、迫害などのような苦しい状態は、求められている幸福感を減らすものですので、幸せを味わうために絶対に避けるべきものです。けれども、イエスの教えによれば、それらの状態は、最高の幸福を妨げることができないだけでなく、この幸福への道になり得るものでありますので、絶対的な悪ではありません。
- ◆ 逆に、最初の三つの段階において求められているもの、即ち、快樂、富、成功、満足、評価されることなどは、最高の幸福を妨げるものになり得ますので、絶対的な善ではないし、幸せになるためにどうしても必要なものでもありません。

「真福八端はイエス・キリストの姿を描き、その愛を映し出しています。受難と復活というキリストの栄光にあずかる信者たちの召命を表し、キリスト者の生活を特徴づける行動と態度とを明らかにするものです。苦難の中での希望を支える逆説的な約束であり、目には見えなくともすでに与えられた祝福と報いとを弟子たちに告げるものです。そしてそれは、おとめマリアやすべての聖人たちの生活の中で始められています。」（カトリック教会のカテキズム 1717）

「約束された至福のことを考えると、わたしたちは決定的な倫理的選択の前に立たされます。自分の心を悪い本能から清め、すべてを超えて神を愛するようにと促されます。またわたしたちは、真の幸福は富や安楽にも、人間的栄光や権力にも、たとえそれが科学や技術や芸術のような有益なものであったとしても、人間の業績のうちにも、被造物のうちにもなく、あらゆる善と愛との源である神のうちのみあることを教えられます。」（カトリック教会のカテキズム 1723）

1. 心の貧しい人々（天の国はその人たちのものである）

- ◇ 最高の幸福は、人間の努力の結果ではなく、神の賜物です。
- ◇ 心の貧しい人々というのは、幸福の源と考えられた「富」（権力、社会的地位、財産、健康、他人に認められること、評判、評価されること、理想自己像など）を捨て（それを幸福になる絶対的な条件として考えなくなる）、自分の力ではなく神に頼り、すべてを神に委ねたいと望む人です。

2. 悲しむ人々（慰められる）

悲しみの原因：

- 今まで、幻想の中に生きてきて、無駄な努力をしてきたこと
- 自分が罪に支配されていること
- 前の生き方に執着していること（ロマ7, 14-25）
- 自分が愛している人たちは、まだ幻想の中に生きていること

3. 柔和な人々（地を受け継ぐ）


- ◇ 自分の力によって幸せになろうとしている人にとって、他人は競争の相手や敵であります。他人との関係は力（権力、体力、お金、学歴、社会的な位置など）に基づいています。
- ◇ 自分の幸福は神の恵みであると信じる人は、他人と接するとき、自分の力に頼りません。
- ◇ 他人を自分の利益のために利用しないが、弱虫や受身的、または無関心であるわけではなく、他人の善のために働きます。
- ◇ 弱い人に対して優しい、強い（権力のある）人に対して強い（厳しい）態度をとることが出来ます。

4. 義に飢え渴く人々（満たされる）

- ◇ 聖書において正義とは、神の望みの実現であり、正しい人とは、神との正しい関係に生きる人、神の望みに従って生きる人です。
- ◇ 神の望みを表すもの：神の掟、イエスの教え（模範）、神の約束など
- ◇ 義に飢え渴く人は、自分の限界を認め、自分の正しい行いに頼るのではなく、神の慈しみと誠実に頼って神の約束の実現(成就)を待ち望んでいます。
- ◇ 義に飢え渴く人の祈り：「み国が来ますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。」
- ◇ ファリサイ派の人たちは、掟を完全に守っていると思って、自分のことを満足し、神から報いをもらう権利があると思いました。要するに、神ではなく、自分の行いに頼っていました。

5. 憐れみ深い人々（憐れみを受ける）

ὅτι αὐτοὶ ἐλεηθήσονται. are the merciful, for they shall receive mercy. (慈しみ)

- ◇ 慈しみとは、愛（他人のために善を求めること）の実践です。
- ◇ 慈しみ深い人は、愛を人生の基本原則（自分の選択の基準）や、他人との関係の基礎とします。
 「あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるよう熱心に努めなさい。そこで、わたしはあなたがたに最高の道を教えます。たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。」 1 コリ 12:31-13:1
- ◇ 人は、柔和で、義に飢え渴くようになって初めて、この賜物を受けることが出来ます。

6. 心の清い人々（神を見る）

- ◇ 愛の賜物を受け入れることによって人は利己心（自己中心的な価値観、期待、欲望）から解放されます。
- ◇ そのために、この人は外面の生活が自分の望みと一致する（調和のとれた）人になり、他人の本当の必要性を見わけて、他者のために真の善を行うことが出来るようになります。

7. 平和を実現する人々（神の子と呼ばれる）

- ◇ 争いの原因：
 - 力に基づく人間関係（自分の欲望を満たそうとして、他人を競争相手や敵として見なすとき）
 - 内面的な分裂や不安
- ◇ 自分自身の内面的分裂から癒された（心の清い）人は、分裂や争いのあるところに、愛に基づく一致と和解をもたらす人になり、神の救いの計画（神の国）の実現に協力することが出来るようになります。

8. 義のために迫害される人々（天の国はその人たちのものである）

☞ 「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っではならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。」 マタ 10:34

☞ 「するとシメオンは彼らを祝し、そして母マリヤに言った、「ごらんなさい、この幼な子は、イスラエルの多くの人を倒れさせたり立ちあがらせたりするために、また反対を受けるしるしとして、定められています。」 ルカ 2:34

- ◇ 神の最大の約束である神の国を（自分と他の人のために）求めて、キリストの教えに基づく生き方によっての神の国を証しする人は、この世の価値観に抗議して、それに基づいて生きている人に悔い改めるように呼びかけます。これによって「この世の平和」（安定感、幸福感）に挑戦（それを破壊）します。
- ◇ そのために、仲間はずれにされたり、差別されたり、迫害されたりすることがありますが、この人は迫害などのような悪さえも善のために利用し、霊的な命をもたらします。

地の塩、世の光 マタ 5:13-16

- ◆ 塩は、清める、保存させる(腐敗防止剤)、味を付ける、渴きを与える、命を支える
- ◆ 光は、生きるために、目的や道を見るために必要です。

☞ 「主であるわたしは、恵みをもってあなたを呼び／あなたの手を取った。民の契約、諸国の光として／あなたを形づくり、あなたを立てた。見ることのできない目を開き／捕らわれ人をその枷から／闇に住む人をその牢獄から救い出すために。」 イザ 42:6-7

☞ 「主の御目にわたしは重んじられている。わたしの神こそ、わたしの力。今や、主は言われる。ヤコブを御もとに立ち帰らせ／イスラエルを集めるために／母の胎にあったわたしを／御自分の僕として形づくられた主はこう言われる。わたしはあなたを僕として／ヤコブの諸部族を立ち上がらせ／イスラエルの残りの者を連れ帰らせる。だがそれにもまして／わたしはあなたを国々の光とし／わたしの救いを地の果てまで、もたらす者とする。」 イザ 49:5-6

律法について マタ 5:17-20

☞ 「言っておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」 マタ 5:20

「ユダヤ人や彼らの宗教的指導者の目には、イエスは「ラビ」として映りました。しばしば、律法のラビ流の解釈の枠内での論争もしておられます。しかし同時に、イエスは律法学者たちと衝突しないわけにはいきませんでした。なぜなら、彼らの間にご自分の解釈を提示するにとどまらず、「律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったから」（マタ 7, 29）です。書かれた律法をモーセに授けるためにかつてシナイ山上で響きわたったその同じ神のことばが、イエスにおいて、今一度至福の山で語られるのです。このことばは、律法を廃止するのではなく、神からの最終的な解釈を供することによって律法を完成します。「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は、……と命じられている。しかし、わたしはいつておく」（マタ 5, 33-34）。この同じ神の權威をもって、イエスはまた、神のことばを無にしているファリサイ派の人々の「人間のいい伝え」の幾つかを非難されます。」（カトリック教会のカテキズム 581）

◆ 神の十戒（出エジプト記 20・2-17）

- 第一、わたしはあなたの主なる神である、わたしのほか、誰をも神としてはいけない。
- 第二、あなたは、神のみ名をみだりによんではいけない。
- 第三、あなたは、安息日を聖としなさい。
- 第四、あなたは、父母をうやまいなさい。
- 第五、あなたは、殺してはいけない。
- 第六、あなたは、姦淫してはいけない。
- 第七、あなたは、盗んではいけない。
- 第八、あなたは、偽証してはいけない。
- 第九、あなたは、ひとの妻を望んではいけない。
- 第十、あなたは、人の持ち物をみだりに望んではいけない。

腹を立ててはならない マタ 5:21-26

- ◆ 人を殺したり、体を傷つけたりすることだけではなく、人の感情や名誉を傷つけることも、愛に反します。

姦淫してはならない マタ 5:27-30

- ◆ 姦淫は自分の楽しみや自分の満足のために他者を利用することでありますので、行いだけではなく、思いや態度によってもこの罪を犯すことがあります。
- ◆ 愛は、相手の善のために力を尽くし、必要に応じて犠牲を払うことでありますので、以上の意味での姦淫（色情、肉欲）は、愛の正反対です。

離縁してはならない マタ 5:31-32

- ◆ 神の望みに適う結婚の生活は、夫婦にとって永遠の命へと導く道でありますので、色々な問題や困難に直面しても、夫婦の愛に忠実に生き、それを深めるように努めることは、自分にとっても、相手にとっても何よりも大切なことです。
- ◆ 民法上で離婚しても、有効な結婚による夫婦の絆が消えません。

復讐してはならない マタ 5:38-42

📖 「わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。」 マタ 5:39

- ◆ ἀντίσταναι {anth-is'-tay-mee} (同じような(悪い)方法をもって)抵抗する、
(私たちが攻撃する人と同じレベルに立って)争いの相手になる、
相手に対して敵意を持つ、相手を敵として見なす、相手を拒否する
「(同じ)悪をもって、悪人に抵抗してはならない。」

📖 「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。」 ロマ 12:21

- ◆ キリスト者には、自分や他者を守る権利があるだけでなく、義務もありますが、不正な方法を用いないように注意する必要があります。(悪をもって悪と戦うのは、悪を滅ぼすのではなく、悪を増やすのです。)

敵を愛しなさい マタ 5:43-48

📖 「あなたがたも聞いているとおおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」 マタ 5:43-48

- ◆ キリスト者は、自分に対して好意を持って、善を行う人のためにだけ良いことをするのではなく、自分に対して敵意を持って、悪を行い自分に害を与える人のためにも善を望み、できる限り善を行うように努めます。